
12月16日（水） 19:00～21:30

【テーマ】 水産業

【タイトル】

地域資源を活かした持続可能な漁業の実現 ～世界へ発信する「あまべ牡蠣」の挑戦～

【概要／狙い】

漁業の問題点の一つとして、資源管理の難しさが挙げられます。世界全体が経済成長し人口が増えることで漁獲量が増え、資源量が減っているといわれています。

それに対し、日本国内でも養殖や資源管理の適正化などが行われています。

一方で、近海で獲れた魚介類をその地域で頂き、未利用魚を活用する在り方も一つの自然な在り方だと言えます。

そんな状況の中、今まさに持続可能な漁業の実現を目指す水産ベンチャーが徳島県海陽町にあります。それが株式会社リブルです。

リブルはICTを駆使した「牡蠣の養殖」にのりだし、勘と経験に依存しがちだった牡蠣の養殖事業を変革し、安定した収量の確保や事業の拡大を図ることで、地域産業の発展につなげようとしています。リブルはデジタルテクノロジーを積極的に活用することで、養殖にかかる作業時間を年間188時間削減することを目指しています。

あわせて、2024年をめどに牡蠣の出荷量を現在の5倍に相当する30万個にまで増やす目標を掲げています。

水産業の資源管理という問題をどのようにとらえ、アクションを起こせば、漁業は持続するのか。リブルの思想と取り組みから、持続可能な漁業の在り方について考えます。

【場所】

オンライン（Zoom）

【講師】

早川 尚吾 / 株式会社リブル 代表取締役

高畑 拓弥 / 株式会社リブル 取締役

【課題図書】

『魚が食べられなくなる日』

著者：勝川 俊雄（小学館新書）

【参考サイト】

[株式会社リブルのホームページ](#)

【参考写真】

